

公益社団法人岡山県柔道整復師会 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、公益社団法人岡山県柔道整復師会（以下「本会」という）と称する。

(事務所)

第2条 本会は、主たる事務所を岡山県岡山市に置く。

2 本会は、理事会の決議により従たる事務所を岡山県の必要な地に置くことができる。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本会は、公益社団法人日本柔道整復師会と連携して、日本の伝統医療である柔道整復学、柔道整復術の進歩発展とその医学的研究をなし、併せて普及啓発に努め、医療保険制度達成への協力、柔道などのスポーツを通して県民の心身の健全な発達を図り、柔道整復師の資質向上、県民の医療・保健・福祉の円滑な運営と健全な発展に寄与することにより、県民福祉の増進に貢献することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の公益目的事業を行う。

- (1) 柔道整復師の医療保険受領委任制度の推進に関する事業
- (2) 柔道整復師の資質向上及び指導、養成に関する事業
- (3) 柔道整復学及び柔道整復術の医学的進歩発展、調査研究に関する事業
- (4) 柔道等を通して県民の心身の健全な発達と体位向上に関する事業
- (5) 高齢者の福祉サービスの充実に関する事業
- (6) 柔道整復術を活かした災害時等の救護活動に関する事業
- (7) 柔道整復師並びに柔道整復学及び柔道整復術の普及啓発に関する事業
- (8) その他本会の公益目的を達成するために必要な事業

2 本会は、前項の公益目的事業の推進に資するため、次の共益及び収益事業等を行う。

- (1) 柔道整復師の振作昂揚に関する事業
- (2) 会員の福祉増進並びに相互扶助に関する事業

- (3) 前各号の事業に附帯する事業
- 3 その他本会の目的を達成するために必要な事業を行う。
- 4 前3項の事業は、岡山県内において行うものとする。

第3章 会員

(法人の構成員)

第5条 本会は、次の会員をもって構成する。

- (1) 正会員 岡山県内における施術所の管理柔道整復師、又はその施術所に勤務する柔道整復師であり、本会の目的に賛同して入会した者
 - (2) 賛助会員 正会員と共にその施術所に勤務する柔道整復師、及び柔道整復師の資格があり現在営業を行っていない者で、本会を賛助するため入会した者
 - (3) 名誉会員 本会に対して功績のあった者で、理事会の承認を受けた者
- 2 前項の正会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律(平成18年法律第48号。以下「法人法」という)上の社員とする。

(会員資格の取得)

第6条 本会に正会員又は賛助会員として入会しようとする者(以下「入会申込者」という)は、理事会が別に定める入会申込書に必要書類を添えて本会に提出するものとする。

- 2 入会は、総会において定める入会及び退会規程に定める基準により、理事会においてその可否を決定し、これを入会申込者に通知するものとする。
- 3 入会した会員のうち正会員は、同時に公益社団法人日本柔道整復師会にも入会するものとする。

(経費の負担)

第7条 正会員は、本会の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、総会において別に定める会費規程に基づき入会金及び会費(以下「会費等」という。)を支払わなければならない。ただし特別の事情がある者に対しては、理事会の決議を経てその額を免除することができる。

- 2 賛助会員及び名誉会員は、本会の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、総会において別に定める会費規程に基づき会費を支払わなければならない。ただし特別の事情がある者に対しては、理事会の決議を経てその額を免除することができる。
- 3 正会員会費等及び賛助会員会費、名誉会員会費についてはその2分の1以上は公益目的事業のために、残余はその他の事業及び管理費用のために充当するものとする。

(任意退会)

第8条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより任意にいつでも退会することができる。

(懲戒)

第9条 会員が次の各号の一に該当したときは、第4項に定める理事会又は理事会及び総会の決議を経て、その会員を懲戒することができる。

- (1) 本会の定款又は規則その他の規程に違反したとき。
- (2) 法令に違反して、刑罰に処せられ、又は行政処分を受けたとき。
- (3) 本会の入会金及び会費を滞納し、かつ、催告を受けてなお納付しないとき。
- (4) 本会又は本会の会員としての信用と名誉を傷つける行為をしたとき。
- (5) その他除名すべき正当な事由があるとき。

2 懲戒は、次の各号に定める方法のうち、何れかの方法により行う。

- (1) 戒告
- (2) 各種医療保険の取扱いに関する権利の停止
- (3) 除名(前項第3号に該当する場合を除く。)

3 懲戒は、その事由に該当すると認められた会員に対し、決議の前に、理事会において、十分な弁明の機会を与えなければならない。また、前項第3号に定める方法(除名)による場合は、当該会員に対し、総会の1週間前までに、当該総会において除名を審議すること、かつ、その決議の前に弁明する機会を与えることを通知しなければならない。

4 懲戒は、第2項第1号又は第2号に定める方法(戒告又は各種医療保険の取扱いに関する権利の停止)による場合は理事会の決議により、また、第3号に定める方法(除名)による場合は理事会の決議を経たうえ、総会において総正会員の半数以上であって、かつ総正会員の議決権の3分の2以上の多数決により、これを決する。

5 入会金及び会費の滞納者に対しては、催告を行い、催告後1か月を過ぎても納入がないときは、第2項第2号に定める方法(各種医療保険の取扱いに関する権利の停止)による懲戒を行う。また、次項に定める当該懲戒の通知後、1か月を過ぎてもなお未納の場合は、会員資格を喪失するものとする。

6 第4項により懲戒が決議されたとき、又は前項により会員資格を喪失したときは、会長は、当該会員に対し書面によりその内容及び理由を通知する。

7 本条に定めるもののほか、懲戒に関し必要な事項は、理事会の決議を経て、規則をもってこれを定めることが出来る。

(会員資格の喪失)

第10条 第8条並びに前条第2項第3号及び第5項の場合のほか、会員は、次の各号の一に該当するに至ったときには、その資格を喪失する。

- (1) 柔道整復師の免許を失ったとき
- (2) すべての正会員が同意したとき
- (3) 当該会員が死亡したとき
- (4) 正会員が公益社団法人日本柔道整復師会の資格を喪失したとき
- (5) 本会が解散したとき

(既納の会費等の不返還)

第11条 既納の会費、及び寄付金その他拠出金等は、これを返還しない。

第4章 総会

(総会の種類及び開催)

第12条 本会の総会は、定期総会及び臨時総会とする。

2 定期総会は、毎年度1回、事業年度終了後3ヶ月以内に開催する。

3 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会において開催の決議がなされたとき。
- (2) 議決権の5分の1以上を有する正会員から、会議の目的である事項及び招集の理由を記載した書面により、招集の請求が理事にあったとき。

(総会の構成及び議決権の数)

第13条 総会は、すべての正会員をもって構成する。

2 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

3 第1項の総会をもって、法人法上の社員総会とする。

(権限)

第14条 総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 定款の変更
- (4) 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認
- (5) 理事及び監事の報酬等の額
- (6) 解散及び残余財産の処分
- (7) 前各号で定めるもののほか、総会で決議するものとして、法人法に規定する事項及びこの定款で定められた事項

(総会の招集)

第15条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき、会長(第21条第2項の会長をいう。以下同じ)が招集する。ただし、会

長に事故あるときは、あらかじめ理事会において定めた理事が招集する。

2 会長は、第12条第3項第2号の規定による請求があったときは、その日から6週間以内の日を総会の日として総会を招集しなければならない。

3 会長は、理事会の決議により決定された次に掲げる事項を記載し、総会の開催日の2週間前までに書面をもって通知しなければならない。

(1) 総会の日時及び場所

(2) 総会の目的である事項

(3) 総会に出席しない正会員が書面によって議決権を行使することができる旨

(議長及び副議長)

第16条 総会の議長及び副議長は、当該総会において会長が指名する。

2 議長は、当該総会の公正かつ円滑な運営を確保するため、秩序維持及び議事整理を行い、副議長は、議長を補佐し、議長に事故あるときはその職務を代行する。

3 議長は、その命令に従わない者その他当該総会の秩序を乱すものを退場させることができる。

(総会の定足数)

第17条 総会は、この定款に別段の定めがある場合を除き、総正会員の議決権の過半数を有する正会員の出席により成立する。

(決議)

第18条 総会の決議は、法令及びこの定款に別段の定めがある場合を除き、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した総正会員の議決権の過半数をもって決する。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、かつ総正会員の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

(1) 会員の除名

(2) 監事の解任

(3) 定款の変更

(4) 解散

(5) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。

理事又は監事の候補者の合計数が第21条第1項に定める定数を上回る場合は、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任する。

(代理人及び書面による議決権の行使)

第19条 総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は本会指定の委任状を本会に提出して、他の正会員を代理人としてその議決権を行使することができる。ただし、役員を選任に関しては、代理人による議決権の行使は認めない。

2 前項の場合において、第17条及び、第18条の規定の適用については出席したもののみならず。

3 書面により議決権を行使する場合は、正会員は、総会の日時の直前の業務時間の終了までに、必要な事項を記載した議決権行使書面を本会に提出しなければならない。

(議事録)

第20条 総会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成する。

2 議長及び出席した理事のうち1名は、前項の議事録に記名押印する。

第5章 役員

(役員を設置)

第21条 本会に、次の役員を置く。

(1) 理事 9名以上11名以内

(2) 監事 2名以内

2 理事のうち、1名を会長、3名以内を副会長とする。

3 前項の会長をもって法人法上の代表理事とし、副会長及びその他の理事をもって法人法第91条に定める業務執行理事とする。

(役員を選任)

第22条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2 会長は、理事会において選定及び解職する。この場合において、理事会は、総会の決議により会長候補者を選出し、理事会において当該候補者を選定する方法によることができる。

3 副会長及び業務執行理事は、理事会において選定する。副会長にあつては会長が理事のうちより推薦するものとする。

4 理事のうち、理事のいずれか1名とその配偶者又は3親等内の親族その他特別の関係にある者の合計数は、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

5 他の同一の団体の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接

な関係にある者である理事の合計数は、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事についても同様とする。

- 6 監事は本会の理事又は使用人を兼ねることができない。
- 7 理事又は監事に異動があったときは、2週間以内に登記し、登記事項証明書等を添え、遅滞なくその旨を行政庁に届けなければならない。

(理事の職務及び権限)

第23条 会長は、法令及びこの定款で定めるところにより、本会を代表し、その業務を執行する。

- 2 副会長は会長を補佐し、この定款及び理事会において定めるところにより、本会の業務を分担執行する。
- 3 理事は、会長及び副会長を補佐し、理事会において別に定めるところにより本会の業務を分担執行する。

(監事の職務及び権限)

第24条 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 理事の職務執行の状況を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成すること。
- (2) 本会の業務及び財産の状況を調査し、並びに各事業年度に係る計算書類及び事業報告等を監査すること。
- (3) 理事会に出席し、必要あると認めるときは意見を述べること。
- (4) 理事が不正の行為をし、若しくはその行為をするおそれがあると認めるとき、又は法令若しくは定款に違反する事実若しくは著しく不当な事実があると認めるときは、これを理事会に報告すること。
- (5) 前号の報告をするため必要があるときは、会長に理事会の招集を請求すること。ただし、その請求をした日から5日以内に、その請求をした日から2週間以内の日を理事会の日とする招集通知が発せられない場合は、直接理事会を招集すること。
- (6) 理事が総会に提出しようとする議案、書類その他法令で定めるものを調査し、法令若しくは定款に違反し、又は著しく不当な事項があると認めるときは、その調査の結果を総会に報告すること。
- (7) 理事が本会の目的の範囲外の行為その他法令若しくは定款に違反する行為をし、又はその行為をするおそれがある場合において、その行為によって本会に著しい損害が生じるおそれがあるときは、その理事に対し、その行為をやめることを請求すること。
- (8) その他監事に認められた法令上の権限を行使すること。

(役員任期)

第25条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定期総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 理事及び監事は、第21条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事及び監事としての権利義務を有する。

3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

(役員解任)

第26条 理事及び監事は、総会の決議によって解任することができる。

(役員報酬等)

第27条 理事及び監事に対して、総会において定める総額の範囲内で、総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬及び費用として支給することができる。

(顧問及び相談役)

第28条 本会に、任意の機関として顧問及び相談役を若干名置くことができる。

2 顧問及び相談役は、学識経験者又は本会に特に功労のあった会員（現職役員を除く。）のうちから理事会の決議を経て会長が委嘱する。

3 顧問及び相談役は、会長の諮問に応じ、本会の各種会議に出席して意見を述べることができる。ただし、総会における会員としての表決を除き、表決に加わることはできない。

4 顧問及び相談役の任期は、委嘱した会長の在任期間とする。

5 顧問及び相談役の報酬等は、理事会で別に定める。

第6章 理事会

(構成)

第29条 本会に理事会を置く。

2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

3 監事は理事会に出席し、必要があると認めるときは、意見を述べなければならない。ただし、表決に加わることはできない。

(権限)

第30条 理事会は法令又はこの定款に別に定めるもののほか、次の職務を行う。

(1) 総会の日時及び場所並びに目的である事項の決定

- (2) 理事の職務の執行の監督
 - (3) 会長、副会長及びその他の業務執行理事の選定及び解職
 - (4) 規則の制定、変更及び廃止
 - (5) 前各号に定めるもののほか本会の業務執行の決定
- 2 理事会は次に掲げる事項その他の重要な業務執行の決定を、理事に委任することができない。
- (1) 重要な財産の処分及び譲受け
 - (2) 多額の借財
 - (3) 重要な使用人の選任及び解任
 - (4) 従たる事務所その他重要な組織の設置、変更及び廃止
 - (5) 内部管理体制（理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他本会の業務の適正を確保するために必要な法令で定める体制をいう。）の整備

(招集)

第31条 理事会は会長が招集する。

- 2 理事会を招集するときは、会議の日時、場所及び目的を記載した書面若しくは電磁的方法により、開催日の7日前までに通知しなければならない。
- 3 会長が欠けたとき又は事故あるときは、あらかじめ理事会において定めた順序による理事が招集する。
- 4 第2項の規定にかかわらず、理事会は理事及び監事の全員の同意があるときは、招集の手続きを経ることなく開催することができる。

(議長)

第32条 理事会の議長は、会長がこれにあたる。ただし、会長に事故あるときは、あらかじめ理事会において定めた順序による理事がこれにあたる。

(決議)

第33条 理事会の決議は、理事総数の3分の2以上が出席し、その過半数（決議について特別の利害関係を有する理事を除く。）をもって決する。

(決議の省略)

第34条 理事が理事会の決議の目的である事項を提案した場合において、当該提案につき理事全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

(議事録)

第35条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作

成する。

- 2 出席した会長及び監事は、議事録に署名又は記名押印する。

第7章 組織編成

(業務機関)

第36条 理事会は本会業務を分掌させるための部会、委員会、諮問機関及び下部組織等を設置することができる。

- 2 前項について必要な事項は理事会で別に定める。

第8章 事務局

(事務局)

第37条 本会の事務を処理するため、事務局を設置する。

- 2 事務局には、所要の職員を置く。
- 3 重要な職員は、理事会の承認を得て、会長が任免する。
- 4 前項以外の職員は、会長が任免する。
- 5 事務局の組織及び運営に関する必要な事項は、理事会の決議を経て、会長が別に定める。

第9章 資産及び会計

(資産の構成)

第38条 本会の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された財産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄附金品及び助成金
- (4) 財産から生じる収入
- (5) 事業に伴う収入
- (6) その他の収入

(事業年度)

第39条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第40条 本会の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに会長が作成し、理事会の承認を受け、直近の総会に報告しなければならない。これを変更する場合も同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供する。
- 3 第1項の事業計画、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに行政庁に提出しなければならない。

(事業報告及び決算)

第41条 本会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時総会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を得なければならない。

- (1) 事業報告書
 - (2) 事業報告の附属明細書
 - (3) 貸借対照表
 - (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
 - (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
 - (6) 財産目録
- 2 前項の規定により報告され、又は承認を受けた書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款、会員名簿を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供する。
- (1) 監査報告
 - (2) 理事及び監事の名簿
 - (3) 理事及び監事の報酬等の支給の基準を記載した書類
 - (4) 運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類
- 3 第1項及び第2項の書類（定款を除く）については、毎事業年度の終了後3ヶ月以内に行政庁に提出しなければならない。

(会計規程)

第42条 本会の会計に関し必要な規程は、理事会の決議を経て別に定める。

(公益目的取得財産残額の算定)

第43条 会長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益

目的取得財産残額を算定し、第41条第2項第4号に定める書類に記載する。

(長期借入金)

第44条 本会が資金の借入れをしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、理事会の決議及び総会の承認を受けなければならない。

第10章 定款の変更および解散等

(定款の変更)

第45条 この定款は、総会の決議により変更することができる。

(合併等)

第46条 本会は、総会の決議その他法令に定めるところにより、他の法人法上の法人との合併又は事業の全部の譲渡を行うことができる。

(解散)

第47条 本会は、総会の決議その他法令で定められた事由により、解散する。

(公益目的取得財産残額の贈与)

第48条 本会が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により消滅する場合(その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。)には、総会の決議を経て、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から1か月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律(以下「認定法」という。)第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

(残余財産の帰属)

第49条 本会が清算する場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、認定法第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第11章 公告

(公告の方法)

第50条 本会の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第12章 補則

(委任)

第51条 この定款に定めるもののほか、本会の運営に必要な規則は、理事会の決議を経て会長が別に定める。

附 則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（以下「整備法」という。）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 本会の最初の会長（代表理事）は小合洋一とする。
- 3 整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第39条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。